

令和元年度 稲沢市地域自立支援協議会 第3回地域生活支援部会 議事要旨

[日 時] 令和元年 11 月 14 日 (木) 午後 2 時～午後 3 時 30 分

[場 所] 稲沢市役所 第 1 分庁舎 2 階 第 2 会議室

[出席者] 地域生活支援部会委員 9 人、事務局 2 人

[欠席者] 地域生活支援部会委員 2 人

[議 事]

1 協議事項

(1) 医療的ケア児支援ネットワークについて

・9月の作業部会について報告(担当委員)

- 医療的ケアのコーディネーターがいることを6病院に送付した反応はどうか。
- この反応かどうか分からないが同じ時期に、医ケアが必要になった方が地域に戻るため関わってほしいという案内が病院からあり、退院前カンファレンスに参加してその後の様子も相談員から聞いている。
- 部会で検討した方が良いことはあるか。作業部会への医師の参加についてどうするか。その後医師会に打診をしたのか。
- まだ何もしていない。この部会で決まったらと思っている。
- 学校への看護師の配置については大きい話になる。看護師がすぐ集まるものではない。
- 福祉事業所では看護師は指導員としてカウントできないが、保育所では保育士としてカウントできる。今度の作業部会で詰めていき、部会に報告してもらうことで良いか。
- 医師会の話は、医師に期待することや役割を、部会として明確にして、それを伝えていく必要がある。個人的にはOKでも医師会となると話が変わることもある。先生により温度差がある。
- この会は誰でも参加出来るように、と言う事で始まったが、医師は難しいか。
- 医師会と言う組織で動く部分があるので、話をどういう順序で通すかとか、来たい人誰でも、ということでは難しい。組織に属されていて先生それぞれの思いがあるので慎重にいかないといけない。
- 医師会を通してというのはどこからの話だったか。
- 講演会に参加された医師からは、会員の違いがあることなどについて説明を受けた。会議の内容を伝えることや、他の先生に伝えたいことについて知らせる協力はできるという話があった。医師としては当事者の声を聞きたい気持ちがあるとされていた。
- 文書を送って参加してもらえ方お願いしますというように、簡単には行かないということか。
- 医師会に先に話を通して話をしてから文書送るということなら可能だと思う。
- 保健センターでは何かあると医師会長に話をして、考えている事を伝え、色々担当が分かれているので、そちらの先生にも話をして、順番に話をしていく。そこから理事会に

諮りOKが出たら進めていく。その間に事務局にも話をしていく。

- 在宅医療サポートセンターはどんな意見だったか。
- 当日欠席で代理の方が報告をしてくれている。一度話をする必要はあると思うとのこと。
- 医ケア児の対応について市によって対応が違うので、進めていくのは難しいと思う。少しずつ医師会を通していく方が良いかなと思う。
- 早期の段階からでなく、形が出来てから参加していただいても良い。まだ全然形はできていないので、急いで、何しに来たか分からないとなるより、先生を必要とすることになった時に来てもらう形で良いのではないかな。まだ方向性が出ていないこともある。
- 医師会は通さないといけないと思う。段取りを踏めば、そんなに難しいことはない。
- 在宅医療サポートセンターの方と話しをしながら、ある程度形ができてきてから進める。
- 講演会に参加された先生には定期的に連絡を取っておくと良い。協力していただきたい時にはまた医師会に相談していきますのでお願いしますということを伝えていく。
- 先生に繋いでいくのは事例が絡んだことを報告していく。いざとなったら医ケアが必要な子どもたちが沢山いて、ネットワークが必要だという時に後ろ盾になっていただく。
- まだ医療的ケアが必要な子どもについては、医師に限らずそこまでぴんこない事が多いと思う。事例を重ねていくことが大事。先生方は、こどもは大体元気なイメージで、在宅で医療が必要なのは高齢者や障害者と言う印象を持っている。でも実際は子どもの事例がある。現状を目の当たりにしていない医師は多い。
- 事例を重ねていき、他市のケースも把握していく。

(2) 地域生活支援拠点等の整備について

・10月の作業部会について報告(担当委員)

- まだ体験の検討まで行っていなくて、緊急時の対応について考えているところ。全部の事業所で支える形が取ればよい。明日も相談支援事業所の連絡会があり、話をする。
- 10月には白紙の状態だったが、2グループで意見を出したら同じような意見が出ていたので課題は明らかだと思う。病院としても地域の課題が把握できていければ、協力をしていける。各連絡会で課題を共有しながらすすめれば良い支援が出来て行くと思う。
- 拠点がどうしても難しい時は、病院の利用も可能では、という意見も出ていた。ヘルパーも意見交換会が無事に終り、連絡会が立ち上がろうとしている。
- 急にショートを利用する事例があり、その時は夕方までに移動しないとイケなくて対応したが、移動の報酬はあったかと言われるとなかった。
- 連絡会を回ると気付かないような意見が出ると思うが、次回ヘルパー連絡会に出た際は取りまとめお願いしたい。
- 沢山の意見が出てイメージ図が徐々に大きくなっている。緊急時の対応について話しているが、平常時の備えについても意見が出てきている。日頃からの宿泊体験の仕組みづくりについては深めて行けると思う。

- 昼間の居場所はまだ児童の通所事業所しか聞けていないので、大人の事業所に移るとそれなりの意見が出ると想像出来る。確かに拠点は5つの機能を整備しないといけないが、緊急時の連絡先などについても、24時間体制があれば良いが、完璧に整えてスタートでなくても、骨格だけきちんとして令和3年度にスタートできれば良い。制度とか地域生活支援事業とか使えるものは使い、ボランティアになる部分は市で予算を取ってあげれば良いと思うが、財政は大変厳しい。ただ利用見込みは年間で一桁、片手で足りる。他市に聞いても、夜中の相談も年間1、2件というところが多い。第1段階では、必要最低限やれば良い。やれること、あったら良いものは沢山意見を頂きたい。
- 確かに意見をもらっていると反映させないといけないと思う部分もある。スタートはここからだがステップアップの段階で取り入れて行けるようにしたい。
- 良く知っている人がついていける仕組みは良い。それは安心できる。
- 子どもであると児童相談センターが一時保護をする場合がある。その時は学校に通えない。学校に行きながら支えていく体制を取るの難しい事だなと思う。教育を受ける機会を奪われないようにするのは難しいと思う。
- 色々な緊急時があると思う。災害とか、大きい事が起こった時にも普段からベースが考えられていると軽減できるかなと思いながら聞いていた。平常時はとても大事だと思う。
- 学校だと修学旅行やキャンプもあるのでそういう練習にもなるので良いと思う。体験できるなら、してみたい親御さんも多いのではないかな。
- 事業所毎でお泊り体験を独自にしているところもあることが分かった。また作業部会で深めていきたい。

(3) こども部会(仮)設置について

- 今後の予定は第2回の会議を12月13日1時30分から開催する。新たな参加予定は、子育て支援課、学校教育課、特別支援学校、一宮市の自立支援協議会からの参加も調整している。いなざわ特別支援学校は教育支援部の担当の先生が参加される。一宮の自立支援協議会の子ども部会にも参加されていると聞いている。
- こども部会で何を議論しないといけないのか、まだ意見を出している状況。次回は一宮市の方も見えるので今までの経過などお話いただいて、まだ想像できない部分もあるが、稲沢市の課題を協議して行けたら良い。
- 一宮市は協議会で進んで取り組んでいるので、良いところは真似て行けると良い。

(4) その他

・サポートブックについて

- 平成24年度の末に作成し、3月に完成して説明会を行い、その後継続して配布している。当初800冊作り、その後250冊増刷し、今残りが50冊程になっている。増刷するにあたり、今までと同じもので良いのか、書きづらさや中身の見直しなどをした方

が良いのかどうか、どういう方向で進めて行けば良いか。

- 協議の経過は資料のとおりで、平成25年度は周知のチラシを作成した。その後平成26年度はアンケートや事業所説明会について協議した。平成27年度は支援計画の共有、福祉事業所への出前説明会などを行った。平成29年度は通所の連絡会でも出前説明会を行った。平成30年度以降は実施していない。最近は啓発の機会が少ない。
- そのまま印刷するか内容を見直していくことについて、使っている方の声や支援者の声、使いにくいならこうしたら良いという意見はあるか。大幅な改修にはならないと思うが、拠点の話の中にも出てきているので、そういう時にも使えるものなのか、古い情報もそのまま載っているとしますので、増刷の前に見直しが必要な部分は声を聞きたい。
- 利用者には直接聞くのは大変だが、支援者に聞くことは出来るかと思う。
- 作られた時から時代も変わってきている。例えばパソコンでデータを入れて打ち込みができるとか。
- ダウンロードはできるようになっているが、どの程度使われているかは分からない。
- ひまわり園で会うお子さんは紙ベースが多かった。
- いつでも出せると言うことで、足りない部分はダウンロードして使って欲しいと当初から説明している。使いやすいように両方必要かなと思っているが、印刷物が全くなしてHPから印刷してもらえば費用はかからない。
- 色々文字で説明するより写真など貼った方が分かりやすい事がある、取り入れて活用できると家族だけでなく次の先生も分かりやすさがある。使いやすい方法があれば良い。
- 打ち込める物があれば、スマホでいろいろ済ませるお母さんもいる。母子手帳もアプリへと言う話があり、時代がどんどん変わってきている。
- 記録類に関してはアプリに近い電子媒体は、これからは必要かと思う。
- 通所事業所の連絡会で活用について意見があり、写真を貼ることで、こだわりの部分などを載せておくと緊急時に対応しやすいのではないか。
- 本来そういう使い方をしていても良いことになっている。そのまま書かないと、と思われている方もあるが。
- 少し関係者にアンケートをしてみて、その結果で作業部会を検討したい。
- 初期に配布した方は、今ほぼ使わない方もいる。世代が変わってきているのでまたPRしていきたい。
- PRと同時に意見があれば、聞いてほしい。
- アンケートで課題を調べてから部会で報告をする。